

2025 年 12 月 21 日（日）

2025 年度 日本語文法学会 会員総会

【日時】 12 月 21 日（日）12:50～13:10

【場所】 専修大学（神田キャンパス）10 号館 3 階 黒門ホール（10031 教室）

【報告事項】

1. 2024 年度決算について <事前資料 1>

2. 活動報告

1) 大会委員会 <事前資料 2>

2) 学会誌委員会 <事前資料 3>

3) 事務局・総務委員会

4) 学会全般

3. その他

2024年度会計報告

【収入】

内訳	
会費収入	¥4,290,546
大会参加費	¥520,000
雑収入(広告収入)	¥195,000
雑収入(学会誌BN印税)	¥61,410
雑収入(e-book印税)	¥18,761
雑収入(予稿集BN)	¥39,500
雑収入(文法事典印税)	¥112,800
雑収入(利子)	¥592
雑収入(その他)	¥31,850
小計	¥5,270,459
前年度からの繰越金	¥7,070,231
合計	¥12,340,690

【支出】

内訳	
印刷費(予稿集等)	¥385,300
通信費	¥134,632
学会連合関係費	¥30,000
事務局運営費	¥1,199
システム使用料・事務代行料	¥1,011,395
会議費	¥6,614
大会開催費	¥693,547
オンラインイベント開催費	¥151,998
学会誌刊行費	¥3,381,550
クレジットカード手数料	¥107,131
その他	¥742,289
合計	¥6,645,655
次年度への繰越金	¥5,695,035

2024年度予算案(2024年3月評議員会承認)

【収入】

内訳	
会費収入	¥4,200,000
大会参加費	¥500,000
雑収入	¥500,000
小計	¥5,200,000
前年度からの繰越金	¥5,992,767
合計	¥11,192,767

【支出】

内訳	
印刷費(予稿集等)	¥350,000
通信費	¥100,000
学会連合関係費	¥30,000
事務局運営費	¥30,000
システム使用料・事務代行料	¥1,050,000
会議費	¥100,000
大会開催費	¥800,000
オンラインイベント開催費	¥120,000
学会誌刊行費	¥3,800,000
クレジットカード手数料	¥100,000
予備費	¥800,000
合計	¥7,280,000

2024年度における会計業務の執行を監査致しました。
その結果予算は適正に執行されたと認めます。

2025 年 9 月 日

会計監査委員

2025 年 9 月 日

会計監査委員

2024年度会計報告

【収入】

内訳	
会費収入	¥4,290,546
大会参加費	¥520,000
雑収入(広告収入)	¥195,000
雑収入(学会誌BN印税)	¥61,410
雑収入(e-book印税)	¥18,761
雑収入(予稿集BN)	¥39,500
雑収入(文法事典印税)	¥112,800
雑収入(利子)	¥592
雑収入(その他)	¥31,850
小計	¥5,270,459
前年度からの繰越金	¥7,070,231
合計	¥12,340,690

【支出】

内訳	
印刷費(予稿集等)	¥385,300
通信費	¥134,632
学会連合関係費	¥30,000
事務局運営費	¥1,199
システム使用料・事務代行料	¥1,011,395
会議費	¥6,614
大会開催費	¥693,547
オンラインイベント開催費	¥151,998
学会誌刊行費	¥3,381,550
クレジットカード手数料	¥107,131
その他	¥742,289
合計	¥6,645,655
次年度への繰越金	¥5,695,035

2024年度予算案(2024年3月評議員会承認)

【収入】

内訳	
会費収入	¥4,200,000
大会参加費	¥500,000
雑収入	¥500,000
小計	¥5,200,000
前年度からの繰越金	¥5,992,767
合計	¥11,192,767

【支出】

内訳	
印刷費(予稿集等)	¥350,000
通信費	¥100,000
学会連合関係費	¥30,000
事務局運営費	¥30,000
システム使用料・事務代行料	¥1,050,000
会議費	¥100,000
大会開催費	¥800,000
オンラインイベント開催費	¥120,000
学会誌刊行費	¥3,800,000
クレジットカード手数料	¥100,000
予備費	¥800,000
合計	¥7,280,000

2024年度における会計業務の執行を監査致しました。
その結果予算は適正に執行されたと認めます。

2025年9月7日

会計監査委員

阿久澤弘陽

2025年9月8日

会計監査委員

池田来未

2025 年 12 月 21 日 総会資料

<大会委員会報告>

委員長 岡崎友子

メーリングリストによる会議（2025 年 3 月）

配信：大会委員相互間

1. メーリングリストを設定、招待発表を 3 件とし、各委員に発表者の推薦を依頼した。

ZOOM による会議（日時：2025 年 3 月 31 日（月）13 時 00 分～13 時 50 分）

出席者 岩田美穂、岡崎友子（委員長）、窪田悠介（副委員長）、田川拓海、建石始（副委員長）、中川奈津子、野間純平、林淳子

1. 第 26 回大会のシンポジウム企画について企画担当の建石副委員長より提案があり、テーマを「日本語文法研究は何かどう進化しているのか」とした。
3. 応募数に多寡があることから、大会企画としてパネルセッションを用意することとした。窪田副委員長より記述研究と理論研究との接点をテーマとしたパネルセッションの企画が提案された。
4. 招待発表について投票の結果、日本語史分野は福島健伸氏（実践女子大学）、方言分野は大槻知世氏（静岡大学）、理論・現代語分野では大島義和氏（名古屋大学）に依頼することとなった。
5. 委員会内の役割分担を行った。
6. 今後のスケジュールを確認した。

—————以上、会誌 25-2 号掲載

メーリングリストによる会議（2025 年 8 月）

配信：大会委員相互間

1. パネルセッション（一般）について 1 件応募があり査読を行った結果、「採用」とした。
2. 招待発表（3 件）の内諾を報告した。

ZOOM による会議（日時：2025 年 9 月 4 日（木）10 時 00 分～11 時 30 分）

出席者 岩田美穂、岡崎友子（委員長）、窪田悠介（副委員長）、田川拓海、建石始（副委員長）、陳秀茵、堤良一、中川奈津子、野間純平、林淳子

1. 第 26 回大会のプログラム確定にかかわる審議を行った。研究発表応募総数 34、発表枠は 20 枠のため（3 枠が招待）17 件採用の予定であったが、例年に比して応募者多数であり、また、ボーダーラインが僅差のため発表枠を 4 枠増やすことが検討され、承認された。招待発表・パネルセッション（大会企画）についても審議がなされ承認された。
2. 第 26 回大会プログラムにおける役割分担（司会等）を行った。
3. 来年度以降のシンポジウムについて、担当者およびテーマを決定した。
4. 第 26 回大会の懇親会担当を決定した。懇親会大会委員会企画について話し合い、企画 1「研究会紹介」、企画 2「名刺交換セッション」とした。

学会誌委員会報告

◆報告事項◆

1. 『日本語文法』25-2（2025 年 9 月刊行）について

・研究論文 27 本、研究ノート 4 本、計 31 本の投稿があり、このうち、不受理とした論文 2 本を除き、受理した論文は 29 本であった。査読の結果、研究論文 9 本、研究ノート 2 本が採択された。採択率は 37,9%であった。ページ数の関係で、執筆者了解のもと 1 本を次号送りとした。

・学会誌委員からの投稿があったため、「1）二重盲査読（double-blind peer review）を維持する、2）どの委員が投稿したのかについて他の委員がわからないようにする、3）投稿した委員はその号に関する査読業務に一切関わらないようにする」形で査読を行った。25-2 にも「学会誌委員会からのお知らせ」でその旨を説明している。

2. 『日本語文法』26-1（2026 年 3 月刊行）について

・研究論文 27 本、研究ノート 2 本の投稿があり、このうち、不受理とした 1 本を除き、受理した論文は 28 本である。現在査読中。

2025 年 12 月 21 日 総会資料

評議員数に関して

- ・ 評議員選出に関する細則

3. 評議員の任期満了が予定される場合、任期満了の前年の適当な時期までに、評議員会は次期評議員選挙による選出評議員数を定める。

- ・ 評議員の総数を現行（25 名）より 5 名増やし、30 名とする。

3 年ごとに 15 名ずつを改選する。

※ 2027 年度～ ： 13→15 （2027 年度から 3 年間は総数 27 名）

2030 年度～ ： 12→15 （2030 年度から総数 30 名）